



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語 「新しいワイズダムを築こう イエスの教えのもとに」
 アジア会長標語 「一粒の種となろう」
 西日本区理事標語 「(夢を語り未来を創造しよう) -クラブビジョンを語ろう-」
 中部部長標語 「参加することを楽しみを見つけよう Enjoy Your Commitment」
 クラブ会長標語 「10周年に向けて、再度団結しよう」

2001年9月号

< 今月の聖句 >

天は神の栄光を物語り 大空は御手の業を示す。昼は昼に語り伝え 夜は夜に知識を送る。話すことも、語ることもなく 声は聞こえなくても その響きは全地に その言葉は世界の果てに向かう。

詩篇19

例会出欠・遅刻の連絡は「ご出欠連絡書」によりお願いします

2001年9月例会ご案内

第一例会

と き : 9月11日(火)
 と ころ : 名古屋YMCA
 時 間 : PM7:00~
 卓 話 : フィリピンスタディー:
 「名古屋の中のフィリピン!!」
 国際子ども学校を知っていますか
 講 師 : 池住 圭 氏

概要については最終頁をご参照下さい。なお、卓話は午後7時30分から始まります。

第二例会

と き : 9月25日(火)
 と ころ : 名古屋YMCA
 時 間 : PM7:00~

その他

1. 中部部会
 と き : 9月8日(土)
 と ころ : 名古屋中央教会

2. 第19回根の上まつり
 と き : 9月16日(日)
 と ころ : 根の上キャンプ場

8月例会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド(8月)	
	在 席 者	24名	第 1 例 会	16名	当 月・切 手		ニコBOX ノート	
例会出席者	20名	第 2 例 会	12名	当 月・現 金		感 謝 ファンド		
当月出席率	83.33	部 会 他	1名	累 計		累 計	9690	

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

= 強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う =

特集：サンドルクラブホームステイ

2001年8月

IBCクラブ コメット ホームステイ引き受けについて
名古屋グランパスクラブ IBC担当 三井 秀和



1995年5月に当名古屋グランパスクラブと大韓民国インチョン市サンドルクラブとのIBC締結してから8年経ちましたが、今年の8月に今回はじめてサンドルクラブのコメット7人をクラブが引き受けることとなりました。

IBC締結後は両クラブの事有ることにたがいに積極的に参加し合い親密なクラブ交流を行ってきましたが、今回はじめてサンドルクラブのコメット7人をクラブが引き受けることとなりました。

クラブメンバー内ではホームステイを引き受けた経験があるメンバーは少なく、またホームステイを引き受けたいとの希望はあっても決定したのが直前であった事と、期間がお盆の真っ最中である事が重なって引き受け先の決定もすんなりとは決まりませんでした。そこはこれまでのサンドルクラブとの親密な係わり合いと、当クラブの団結力とさらにメネットらの協力を得、無事1週間のステイ期間を終わることが出来ました。

期間中には日和田YMCAキャンプ場にも遠征しましたが、当初心配していた天候にも恵まれ、プログラム内容も好評だったようです。現地で24時間体制でサンドルコメットをフォローしてくれたメンバーとその家族、食事その他でお世話になった土曜クラブには感謝します。

後日、引き受け先のメンバーらの話しをまとめると当初生活習慣の違いでのアクシデントを心配しましたが、言葉の問題とか少々行き違いは有ったものの自分の子供と同じに接していれば問題にならなかったようで、かえってお客扱いをしなかったのがよかったのではと思います。

何事にも初めての経験でありましたが、とてもよい経験を出来たことを来ていただいたサンドルのコメットに感謝したいと思います。

サンドルクラブとの更なる親密な交流が今後とも続くようIBC担当としてメンバー、メネット、コメットらの協力を得て努力して行きたいと思えます。

今回のホームステイについて、ホストをされたメンバー各位から感想が寄せられました。字数無制限で掲載しました。今後の参考に貴重な体験をされたメンバーの感想・ご意見をお聞きください。

ホストファミリー後記

佐々木 忍

わが家がホストファミリーとなる、しかも、明後日ウエルカムパーティ！

突然の決定に、緊張が走った。

わが家にやってくるのは中学生の男の子。ウエルカムパーティーには家族全員で出席したかったが、都合により、私と二男、三男のみ出席。

翌日より、彼の来る日の前日まで出かけていたので、あれよあれよという間だった。

さあ、いよいよである。3人の子供たちと待ち合わせの場所である落合公園に迎えに行く。いざご対面となると、キム君は英語が理解できるので助かったが、わが家の3人は、どうしてよいやらわからず、車の中は静まりかえる

…。

家についてディナータイム。しゃぶしゃぶは初めて食べた様子で、珍しそうに食べていたが、多くは食べない。この日はキャンプの疲れもあって、早く寝たいとのことで、子供たちとのコミュニケーションも少なく、床につく。

2日目。よく眠れた様子で、9時ごろに起きてくる。中学生の長男も同じ頃に起きてきたので、二人で朝食。このときも、会話が少なく少々心配。



10時ごろに家を出て京都へ。名古屋駅まで地下鉄で、その後新幹線。名古屋駅のホームに新幹線が入ってくると、キム君はシャッターを切る。乗車するとあっというまに京都へ。

京都駅の案内所にハングル語のパンフレットをもらいにいくが、今はないとのことで、ちょっと残念。片言の英語で必死に観光案内しながら、東映太秦映画村に向かう。こちらには中国語、英語、ハングル語のパンフレットがあり、キム君もようやくホッとした様子。忍者ショーにも「サムライ！ファンタスティック！ニンジャ！」と興味深そうだった。この頃からわが家の3人の子供たちともうちとけあい始める。

江戸時代を満喫したあとは金閣寺へ。目の前に金箔の建物が現れると、目はくぎ付けになる。写真もたくさんとって、暑い中を見学。その後平安神宮、清水寺と駆け足のコースではあるが、キム君は「ファンタスティック」とのこと。古都の建造物もよいが、うだるような暑さとの戦いに、フロアズの冷たさが心に残ったのではないだろうか。



夕方再び新幹線で名古屋に戻る。せっかく名古屋に来たからには、一度は連れて行かねばと「矢場とん」へ。しかし、疲れのせい、口にあわないのか、ほとんど食べられなかったようだ。我が家の人間は皆大好きなのに、味覚の違いもお国の違いだろう。

夜になると大人はもうクタクタだったが、子供たちはドラゴンボールをきっかけに、国際交流が盛り上がってきた。お互いに紙やノートを広げて、イラストを披露したり、交換したり。夕方ほとんど食事をしてなかったので、ピザを注文し、4人の子供たちはピザを囲んで、ますます盛り上がる。この夜は、子供たちだけで夜更かしして、楽しそうな声がいっまでも響いていた。彼らが何時に寝たのかまったく知らないが、心に残る一夜となったことだろう。

最終日。起きてきた三男坊の目が腫れている。「チーフン君が帰っちゃう、もう会えないの？」という訳。再び会える日が来るといいね、としかいえない親である。さよならパーティの会場に行く前に、今度は身近なスーパーマーケットで、子供だけで1時間の放し飼い。キムくんは長男と一緒に本屋やCDを覗いていたかと思うと、ふと二人の姿が見えない。しかししばらくすると二人とも手にお菓子の袋を握り、ゲームコーナーから出てきた。日用品や衣類コーナーもひととおり見物し、食品コーナーで最後に4人揃って大きなガムを買って、はたからみると、4人の子供を従えた家族のようだった。子供たちもなにやらずっとケラケラと楽しそうに笑っていた。

もう2-3日あれば、本当に国際交流になったかと思うと、駆け足ですぎさった3日間であった。このホームステイは、ゲストにとっても、ホストファミリーにとっても、すばらしい経験だった。チャンスあれば色々な国の子供を招くといいと思う。ワイズもインターナショナルなクラブだなどということを実感した夏である。

不思議なホームステイ

阿部 一雄

ホームステイは3人の男の子ということで、どんな子が来てくれるのかなあー?とちょっと期待をこめてお迎えしました。来てみると、案外?いい子ばかりで安心しました。

で、今回かみさんが帰省中という事で、家庭的なおもてなしが出来ない分、いろんなどこへ連れて行こうと思い、朝早くから夜遅くまで沢山名所を廻ったので、随分疲れていたようでした。今回僕にとって、若い男の子を何処へ連れていき、どうやって楽しませるか真剣に考えるいい機会でした。普段絶対に考えない事ですよ。頭の中の普段使わない部分をつかった、なんか不思議なホームステイでした。

早川家のお盆休み奮戦記

早川 政人

8月14日、Mr. MOONが我が家へ。8月10日ウェルカムパーティーで初対面の弘美は、少し神経質そうな彼を見て不安な感じ。お正月以来の大掃除を決行。坂倉兄より到着が早くなるとの事。

前から息子夫婦へ応援を頼んでいたもので、一緒に春日井の公園へ向かう。車中どうしたらいいのかいろいろ打ち合わせ、結論のないまま到着。息子夫婦はMr. MOONに初対面ではあるが、年齢差があまりないので我々夫婦よりも高感度で迎えることが出来、ほっと一安心です。我が家に到着後シャワーしたいとの事。日和田キャンプの疲れをとり少し休息。少しずつお互いの緊張もとれ、カタコトの英会話(嫁が中心)今日の予定を聞き、夜の食事の希望を聞き魚は大丈夫との事。買出しへペイシティへ。(夜の食事は日和田キャンプの帰りで外食の予定をしていましたので、何も考えていなかった。)まだまだ遠慮がある様子がわかります。



夜の食事は魚料理ですが余り食も進まず、Mr. MOONの口には合わないのかと思いましたが、日本食をやはり食べてもらおうと思い特別にはしませんでした。生野菜、果物は全然食べない。飲み物はウーロン茶、韓国の家庭では何を食べているのかと思います。又、我が家は関西風の薄味ですので特に口に合わないのか?。

息子夫婦及び孫のおかげで何とかいつもの我が家という感が出て助かりました。Mr. MOONは日和田で風邪をひいた様子で鼻が出て止まらない様子で少し心配でし

た。又、息子夫婦が帰り我々夫婦と3人になると何か話そうとするのですが、話題もあまりなくこれは困りました。やはり年齢の差を感じた半日でした。

8月15日は豊田博物館へ行く予定です。8月15日朝9時にMr. MOONを起こしましたが、鼻水がひどく又頭痛がするというのでとりあえず頭痛薬を飲ませ、豊田博物館は中止になりました。彼の風邪を大変心配しました。午後1時、少し頭痛もとれ鼻はあいかわらずひどい状態ですが、軽い昼食をとり買い物に行く事になり、息子夫婦の助人で買い物へ。

Mr. MOON のガールフレンドへのお土産を物色、いろいろとありましたが、素敵なものを買ったようです。夕食後息子夫婦の家へ遊びに誘われ出かけました。その間は老夫婦は少しホットしたのが実感です。娘(亜香音)と息子(公)が帰宅、Mr. MOON とやはりいろいろな話題で夜遅くまで話していたようです。(老夫婦は夢の中です)

8月16日風邪の症状も軽くなりホットー安心。我が家の助人達と「キッチンくま」へ。我が家の助人達とは大変別れがつらいと言っていました。午後4時出国ゲートへ。老夫婦は又の再会を楽しみに送りました。2泊3日の慌ただしいお盆でしたが、いろいろと勉強になり大変楽しい3日間でした。老夫婦には大変な刺激になりました。なお、弘美、息子夫婦、孫(総太、佐織、葉充)娘(亜香音)息子(公)達には大変助かりました。実感です。

「サンドルクラブ」ホームステイの 受け入れについて

加藤 元紹

我が家にとって外国人を迎えることが、有史以来初めてのことで、受け入れ準備もないまま8月10日に彼女(CHOI HANAさん)をお迎えしました。オリエンテーションで、今回の参加者は多少日本語が話せると聞いていたが、彼女がたった一人だけ(残り3人の女性は三井兄のお世話)のためか、相当な緊張感と不安感で片言の日本語も話さない(通じない)状態から始まりました。

そんな中、我が家の次女は図書館から借りてきた「韓国旅行ガイドブック」他何冊もの本を頼りに必死にコミュニケーションを図ろうと努力する姿に理解をしてくれたのか、僅かながら意思が出始めました。それでも最後まで、お互いの言葉の不自由はついて廻りました。(8/12、キャンプに行くため落合公園へ送り届けた時、仲間と自国語を思い切り使えた時の表情に大いに表れていました)もちろん私共の語学能力不足は当然のことであるが、彼女の日本語に対する研究心はあったものの勉強不足も要因と思われる。次に、日本と韓国の文化(慣習も含む)の違いの差が大きかったと、次女は言っていました。無論彼女の自国における生活は知る由もありませんので決め付けはできませんが、朝夕の挨拶、食事への感謝の気持ち、時間に対するけじめ、周りの人への気配りなどに、その差を私も随分感じました。

8/11,8/15の市内での買い物(名古屋水族館観光も含む)、8/15浴衣を着て見に行った盆踊り大会と、その帰り家の前での花火遊びなど、僅か4泊だけの限られた短い時間でも、若い女性らしい思い出を楽しみ、思い出も持って帰ってもらえたつもりと、次女は私に誇らしく報告してく

れました。それだけ真心を込めて親善を尽くしてくれたものと思っています。(ただ、未だにお礼ないと憤慨していますが)

政治的には、首相の靖国神社参拝や教科書問題など、状況のよくない時期の訪問であったが、興味がない素振りでも話題にも出さず、たった一人の寂しい(辛い)名古屋での夏休みのひと時は、自国で科学を学び家庭教師のアルバイトもし、大学院を目指している彼女にとって、貴重な経験の1ページに刻まれたことを確信しております。同時にご縁のできた彼女の今後のご多幸を祈り、感想とさせていただきます。

キムチが一番？

三井 敬子

インチョンのかわいいシスターたちも今は学校が始まり、お友達にホームステイの思い出を報告しているのでしょうか。

「何がおいしかったの？」と聞かれて「ヤッパ、韓国産キムチ(生協で買ったもの)だったよと言っているのでしょう。なあってね笑。揚げ物はokでしたが、醤油味の煮物はお口に合わないようでした。

我が家の三姉妹があちらこちらのホストファミリーにお世話のなるばかりで、いつかはご恩返しをしたいと漠然と考えていたのですが、今回お陰様でチャンスに恵まれ無事にすばらしい経験をさせて頂きまして、ありがとうございました。



水族館とスーパー巡りCDショップ巡り、4泊のみのお付き合いでやっと気心が知れた頃にはかわいい笑顔を残してお帰りになっちゃった。もっと「泊まんなよー」また会いましょう(ハングルではト・マンナヨ)次回はおばさんもしっかり遊んでやってください。

Home Stay in 日和田 camp

松原 好香

事件はある暑い夏の日から始まった。今年はだんなが8月12日に高校の同窓会があるし、加奈の部活の発表があるし、早希の高校受験もひかえているので、皆勤賞もののYMCAの日和田キャンプも今年ではできそうにもないと思って、内心「ホッ」としておりました。

実は私昨年日和田で虫に好かれたのか、私のふわふわの胸に頭から虫がつっこんできて、木曽福島の病院まで降りて手術を受けた悲惨なことがあったのでした。今年はふかふかな自分のベットでお盆が迎えられるわア～。ところがコースケ兄から電話で、「今年は韓国の子供たちの世話があるから松原ファミリーが行かないと困る」と言われてしまったのでした。韓国語しかしゃべれないとのことで、誠さんは韓国語のガイドブックを買ってきて予習をしていました。後の4人はどうにかなるさという具合、ボデイランゲージがあるさ。



8月12日(雨)当日待ち合わせの落合公園に行くと、明るく礼儀正しい子供たちばかり。心が少し軽くなった思いでした。でも名前が覚えにくく解らないまま、恵那のサービスエリアで五平餅とみたらしを買ってみんな配ったが、まったく日本人と区別できません。一路御岳ロープウェイへ。

山道がきつかったのか一人の女の子がコースケ兄の買って半年しかたっていない車に洗礼をあげたのでした。私はあわてて介護をして、思わず自分の頭に付いていたウグスを道端に落としておりました。それを見ていた韓国の3人の男の子達は爆笑しておりました。まあこのハプニングで打ち解けたのではないかと思います。

ゴンドラに加奈と3人の男の子5人で乗ったのですが、何か話したいのですが言葉が出ない。阿部兄が言っていた「お通夜」状態だったのです。とりあえず



3人で韓国語で会話をしており、ゴンドラの中は外から見

ると楽しそうではありましたが。ロープウェイの見晴台でお弁当を食べたりお菓子をみんなで食べていると、進典がみんなとコミュニケーションを取るためか、母に付いているウグスを取って見せびらかしていました。韓国の子らは御嶽山の猿親子と見ていたのではないのでしょうか。

下山して広々した日和田の楽しみの温泉に入ることができると思っていたら、コースケ兄から携帯電話で「下着を持っていない子供がいるので買わなきゃならない」との



事。何い今日はお盆だし日曜日、お店なんてやっているわけがない。増してやこんな山の中。しかたなく七宝館ならホテルだから売っているかもと当りを付けて出かけたのですが、フロントの人に無いと言われました。しかしお金持ちの子供ばかりなのか、タオルもバスタオルも持っていない。キャンプには来たことのない子供なのかなあと感じておりました。

なんとか温泉を済ませ、土曜クラブの待つキャンプ場へ着きホッとしようとしたら、まだ誰も着いていなかったのでありました。でもこの時点でわれらグランパスの男連中は疲れていた様子でした。ここで一息何とかコミュニケーションをと女の子達は4人と荒川さんのお嬢さんや加奈とワイワイガヤガヤやっている。男の子達3人は何だかショボクしていたので話しかけようとする、中でも一番かっこいい男の子(左腕にローレックス右腕に金のブレスレットをした)が、私の目を見て「私はあなたを愛しています」とじょうずな日本語で言うのでした。



こんな言葉だんなにも言われたことないのでア然としてしまい、言葉をかえすこともできませんでした。しばらく

すると土曜クラブの人たちも現れテント決めとそれぞれにシュラフを配布されたのですが、男の子達はここでは寝られないとコースケ兄に抗議をしていました。でも他には無いんだと言い聞かせ、次の日にはロッジが空くからそこへと納得させました。夕食は揚げ物と韓国にはカレーが無いと言っていたのでカレーが出されました。



生野菜は食べないし何となくテントで寝るのが不安そうな男の子達。女の子達はキャピキャピ元気。夜のプログラムは日和田の滞在リーダーにおまかせしました。次の日もチャンネルをやるぞとエプロンを持参。朝いつもと一緒に5時に起きてしまいました。コースケ兄と誠さん達は釣りに出かけてしまい、私はしかたなく化粧をしていました。

一人の男の子だけが言いつけられた時間7時に起きてきたのでした。朝ごはんを食べボーとしていたので進典を引き連れて日韓友好野球をすることに。どういうわけかピッチャーをやる時に巨人の星の主題歌が出てくるのは私だけでしょうか？

後の魚つかみ取りや魚釣りのプログラムは何とかスムーズに過ぎたのですが、魚釣りの釣竿が一番年下の男



の子に回ってこなかったのは年功序列の国なのでしょうか。いつも上の子に命令されていました。進典が持っていた水鉄砲が役に立ち14～21歳の子供達は大はしゃぎ。なんだか日本の子供達より純粋なのかも・・・

昼食のいわなの塩焼きも海に近い仁川だからおいしく食べてもらえました。相変わらず下着を売っている店を探

すのでありました。ところがなんといつも行く「やまゆり壮」に下着の自動販売機が置いてあったのでした。メダタシメダタシ。

夕食は焼肉。韓国の焼肉はおいしいので比べ物にならず、あまり食が進まなかった様子でした。夜のプログラムは滞在リーダーに無理やり頼んだキャンプファイヤー。私もキャンプと言えばキャンプファイヤーが盛り上がる一番と思って楽しみにしていました。やっぱり火を囲んでのスタンプは楽しく盛り上がりました。楽しんでいるとおもちリーダーが「ではOBのリーダー、ぼくと同じ赤いTシャツを着ている人をお願いします」と私を指名。え～私が。



私はリーダー時代からメンバーのようなリーダーと言われたのにイ～。それに昨年やった「ドレミの歌」は他のリーダーにやられてしまいました。どうしようとコースケ兄に助けを頼むと、コースケ兄がシゲキ兄に頼み「クイカイマニマニ」の歌と踊りを何とか披露することが出来てよかったです。

その後家から持ってきた花火大会。ロケット花火を知らないうちの子供達はビックリするばかり。韓国の一番大きな男の子が20本ぐらいのロケット花火にガスボンベにライターで火をつけて一斉に発射。ヒューヒューヒュー、こんなこと初めてでみんなキャーキャー、うちのぼうずがまねせねば・・・誰か韓国は花火禁止だのになアとポツリ。



翌朝は帰る車で渋滞になると思い、日和田を10時に出発。もうクタクタのグランパスの男の人達。反対車線は

やはり渋滞で高速道路なのに進まない様子でありました。昼食はソバを食べてもらい少しはまともな日本食を食べさせることができ良かったです。食べた後韓国の子達はコンビニに行きたがり、やはり現代っ子のような様子でした。私達にも気を使いアイスクリームやパンをくれるやさしい子供達だったのです。

無事に待ち合わせ場所の落合公園に着き、次のホームステイ先の人達も待っていてくれたのでホッとしました。反面もっと話がしたい、聞きたいことがあったのにできなくて残念に思っているとリーダー時代の同僚ピローンがっこい子供3人連れて現れたのにはビックリ。「私はヨシカですヨオ～覚えている？」と言いたかったのですが、疲れていて何も言えませんでした。皆様も同様、お疲れ様でした。荒川さんのかわいいお嬢さん紗千子さんには感謝しております。別れ際にかっこいい男の子が私に「うちの家に来い。ホームステイして下さい」と言われました。喜んで良いのでしょうか。人妻としては……

21世紀幕開けの夏は熱かった

荒川 恭次

「人生何か目標がなくちゃつまらない」と妻の一言に「じゃ、ホームステイホストやってみるか」「いいよ。で、いつから?」「来週から」「えっ!」と降って湧いた話に乗った我が家です。例年なら北アルプス登山に行くのが恒例ですが、今年は家の改装、母の初盆、体調不良と外に行けない理由ばかりあったので、少しばかり腐っていたところでした。日和田キャンプ場行きは当初から決めていたので、ホストファミリー3日含めて都合5日間の未知の体験に挑みました。

サンドルクラブのメンバーについては以前からの付き合いで気心が知れていたのも、特に不安な気持ちはありませんでした。どうせ子供たちも親父たちのようなカラッとした気質だろうと気楽に構えていました。

さて、当日。妻に改装の後片付けと初盆の親戚対応を頼み、昨日の深夜にホームステイ先(国内)から帰ったばかりの娘にハンゲルのガイドブックを持たせて出発したのでした。



日和田での出来事は松原メネットの記事を参考にさせていただくとして、サンドルコメットの面々には戸惑いを隠せませんでした。親父たちとは全く違った人種ではないか。

言葉が通じない以前に感情が通じない。しかし娘に聞けば特に違和感はないとの事。何のことはない、世代の違いということでした。日和田キャンプでは事前にもう少し詳しくロケーション、行動予定、装備等を説明しておればもっと楽しめたのかもしれない。キャンプという概念が日本と韓国で違っていただと思われます。反省その1です。

涼しい日和田にもっと居たかったのですが、装備不十分なサンドルコメットを引き留めるわけにもいかず、この穴埋めは我が家でと帰名の途に付きました。

サンドルクラブからはホームステイメンバーには「日本の歴史を勉強させて欲しい」とのリクエストがありました。サンフーン君に「ジェットコースターと博物館のどちらがいいか?」と聞けば「もちろんジェットコースター」との返事。親の心子知らずはどこでも同じようですが、こちらにはむしろ好都合でした。博物館行ってもろくに説明できませんから誤解が生じたら大変です。このプログラムは次回じっくり体制を整えてからにしましょう。

第二のリクエスト、「日本的な部屋に泊めさせて欲しい」。これは我が家で唯一の畳部屋、最も日本的な仏壇のあるMain Roomにサンフーン君は寝ることになりました。ぐっすり眠れたかどうかは分かりません。

15日はご希望の長島スパーランド行き。朝6時起床で開門前に到着。待ち時間もほとんどなく約半日で日本の世界に誇るジェットコースターを堪能してくれたようです。かいた汗はクアハウスでさっと流しました。彼は日本に来てから何回温泉に入ったのでしょうか。日本人は毎日温泉に入っているなんて、変な印象与えたのではないかと心配です。



さて、ホストをしてみて何が一番困ったか。それはやはり言葉の問題です。妻は韓国の家庭に興味がありいろいろ聞きたいのですが、意思が通じない。そこで活躍したのが翻訳ソフト。事前に佐々木メネットから情報を入れていた、日韓韓日翻訳サービスのあるインターネットサイトを利用して、英語にもならない部分についてはハンゲルで聞くという超高機能なコミュニケーションが可能となりました。ただ韓日がキーボードとフォントの設定がうまく

いかず、一方通行になってしまい、サンフーン君には申し訳ないことをしました。

また、彼らはコンピューターには精通していて、後にメールのやり取りがスムーズにできたことから、次世代のIBCは十分にコミュニケーションできると確信しました。参考までに翻訳サービスのあるサイトを紹介しておきます。ぜひご利用ください。

日韓自動翻訳 <http://www.allkorea.co.jp>

日英自動翻訳 <http://www.excite.co.jp/world/>

最後に、「困ったときにはいつでも電話ください」と言ってくれた李君。日和田キャンプではほんとに助かりました。危機的状況を何とか乗り切れたのも彼のおかげです。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

ホームステイしたメンバーからメールが届いています。ホストファミリーの心配をよそに、けっこう日本の夏を楽しみ勉強したようです。代表して JI SO RA さんからのメールを掲載しました。

It's so-ra.

Remember me?

I had a really good time in Japan.

During home stay,I learned about Japan more.

It was a very worthy time for me.

Camp was great,too.

Thank you for take care of us so kindly.

I hope to see you again.

p.s :I heard next year is 10th birthday of grampus club. Congratulations !



ホームステイ参加メンバー

左から

KIM GEE HOON 君、KIM AH LEUM さん、JI SANG HOON 君、JI SO RA さん、CHOI HANA さん、MOON IN SHIK 君、LIM SU YEON さん

根の上まつりにご参加を

根の上まつりも今年で19回目を迎えました。根の上キャンプ場は来年で50周年です。老朽化も進み近頃の活動も寂しくなってきたことから、今年は参加者からのご意見をお聞きして、これからどのように根の上を生かしていくかを考えてみたいと思います。

我がグランパスも「根の上まつりホストクラブ」としてプログラムの全面的な協力はもちろんのこと、多くの方に参加していただけるよう、ご友人、ご家族を誘ってご参加下さい。自然を満喫できるめったにないチャンスです。前日から泊まって語り合うのにいい機会かもしれません。

申し込みは坂口兄までよろしくお願いします。

日 時:平成13年9月16日(日)10:00~14:00

場 所:根の上キャンプ場(0573-66-4014)

会 費:大人(中学生以上)2,500 円

子供 1,500 円

(会費には設備使用料を含みます)

抽選券 500 円

前日からの宿泊も可能です。

9月第一例会予告

YMCAは青少年教育団体としていくつかの課題や問題に積極的に取り組んでいます。フィリピンワークキャンプも重要な活動で大きな成果を挙げてきました。

この活動を支援するグランパスクラブとして、私たち地域の中にある「フィリピン」にも目を向ける必要があると考えます。

この国際子ども学校は、就学の機会を与えられなかった在日フィリピン人の子どもたちの学校で、運営は「日本聖公会中部教区名古屋学生青年センター」が担っています。もちろん無認可ですから資金や運営は全てボランティアに頼っているのが現状です。

是非、この機会に「生きる」ことの意味を考えて見ましょう。

8月第一例会報告



は、紙面の都合で来月号に廻します。悪しからず。

今月号は非常にたくさんの原稿をいただきましたので、字の大きさを通常 10.5~11 ポイントから 10 ポイントにしました。若干小さくて見づらいでしょうか。それでも8ページ。過去最高量のプリテンになってしまいました。

